

日本の天文研究・教育・普及・アマチュア活動を結ぶ
「日本天文連絡協議会（仮称）」結成の呼びかけ
世界天文年 2009 の成果を受け継ぎ日本社会に科学の理解を広げるために

かねてご協力いただきました世界天文年 2009 は、世界的にも国内でも非常な活況のうちに幕を閉じました。この間のご支援・ご協力に、深く感謝申し上げます。

世界天文年 2009 を提案・主催した国際天文学連合（IAU）では、IAU 加盟国をはるかに上回る参加が得られた世界天文年の発展を受け継ぎ、IYA2009 beyond として 2010 年にも活動を一部継続することを決定しました。その一環には、アマチュア天文家との協力の強化も含まれています。また世界天文年を通じて実証された科学への扉・教育のプラットフォームとしての天文学の大きな役割をふまえ、IAU の新たな試みとして、「発展途上国のための天文学」に 10 年計画で取り組むことになりました。

日本国内では、オール・ジャパンの共同に支えられた世界天文年 2009 日本委員会が組織され、国立天文台に設置された事務局の献身的な活動と相まって、世界的に注目される多彩で意義深い活動が展開されました。皆既日食への関心をはじめ、ホームページアクセス数 5000 万、「めざせ 1000 万人！みんなで星を見よう！」企画の「星を見ました」報告のべ 730 万人、全国各地の公認イベントおよそ 2900 件という数字は、この 1 年、いかに多くの人々が天文学を楽しみ宇宙に思いを馳せたかを示しています。この活動を通じて実現した研究・教育・普及・アマチュア天文家の間の多様な協力は、かつてないものでした。

昨年 12 月に神戸で開催された「世界天文年 2009 グランドフィナーレ」では、この成果を今後どのように活かし、持続的に「科学への扉」としての天文活動を広げてゆくかが議論され、「世界天文年 2009 グランドフィナーレ宣言」が採択されました。宣言は、「この 1 年がもたらした驚きと感動、連携とネットワークをさらに広げ、2010 年以降も未来に向けた活動とその発展を目指すことを誓い、ここに宣言します」と結んでいます。

今年 3 月に開催された世界天文年 2009 日本委員会は、活動を締めくくる総括会議において世界天文年 2009 がもたらした多くの実りと上記宣言の精神を確認し、今後、研究・教育・普及・アマチュア活動が一体となって天文と科学を推進してゆくため、天文関係者を網羅した新たな合同組織として、「日本天文連絡協議会（仮称）」の結成を呼びかけることになりました。世界天文年 2009 日本委員会に結集された各方面を代表する諸団体や研究機関をはじめとして、さらにアマチュア天文家などにも加わっていただき、新たな活動を広げてゆく原動力が生まれることを期待しています。

2010 年 4 月 16 日

発起人代表

世界天文年 2009 日本委員会 委員長

海部 宣 男